



か す い

なえる てきな りどりあるまち 通信第④号

令和4年2月17日 発行：豊島区教育委員会事務局庶務課



今回の活動を終わると節目の学習発表会です。第4回は、前回までの宿題を持ち寄って、グループワーク主体で進めていきました。各グループで話し合いをすすめて、2月17日（木）の学習発表会に向けてラストスパートになっています。オンラインでどんなワークショップを行っていくのか、内容をつめていきます！

オンラインでのワークショップをつくる！

第4回は、学習発表会に向けての準備の回です。まず始めに齋藤先生から2月の学習発表会のゴールと意義についてお話がありました。

★ゴール★ オンラインワークショップをつくって実践！

★意義★ オンラインでも可能な教育方法を考え実践すること

子どもたちがオンライン授業を受けるような環境になった際にメリット・デメリットを共有できる

Society5.0時代の到来でデジタル化・AIが進む中、どのようにオンラインでもコミュニケーションが可能かを考える

ファシリテートの理念・技術を家庭教育に応用するきっかけとする

お子さんたちも使っているこのGoogle Workspace for Educationを使って、保護者の皆さん自身も学び、発信していくことも大きな目的の一つとなっています！

ミニ解説〉 Society5.0時代とは？

狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱されたもの。サイバー空間とフィジカル（現実）空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）です。

詳しくは、内閣府のHPをご確認ください。https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/

*本文も内閣府のHPより引用しています。

オンラインワークショップをつくる時のコツ

オンラインならではの難しさもあります。そこで齋藤先生からオンラインワークショップを作るときのコツを3つ伝授してもらいました。

1. 一緒の場にはいないので、フォローができない。

同じ場にいるとなんとなく伝わってくる気配、空気感がつかめない...それを補うためには

▶事前に困りごとをつぶすためにリハーサルをするのが大事。

▶台本・進行表があることがなお重要。

2. 司会進行・ファシリテーターが明確に指示を出すことが大切。

目配せができない...▶臨機応変に対応するしかない ▶生放送番組の司会者だと思ってやる

3. みんな慣れていないのでうまくいかなくても大丈夫。
 オンラインでのワークショップは、初めてなので何ができて何ができないのかを確認する場でもあります。
- ▶みんな協力してくれるのでしっかり指示を出そう
 - ▶オンラインワークショップは、リアルと比べてうまくいかないことが多いが、すぐに改善も可能です。
- やってみて初めて分かることもとても多いと思います。それも含めて、楽しんでいただけたらと思います！

学習発表会 ワークショップの内容ご案内

詳しくは各自Classroom、または別紙「当日の流れ」でご確認ください。

	ワークショップの内容	参加者が用意するもの
1班	～親子で楽しもう～しりとりジェスチャーゲーム	なし
2班	無理なく親子で心地よいポーズを共有 ～キッズヨガ～	なし
3班	オンライン〇〇身近なものでパッと印象アップ	ティッシュ、アルミホイル、ラップ
4班	我が家の姉妹都市	なし
5班	コロナ渦における子育ての悩み	なし
6班	いろいろな紙飛行機をつくろう	はさみ、のり、セロハンテープ おりがみ、A4の紙

* 変更があればClassroomで更新します。

ここからは、皆さんからいただいたアンケートを一部ご紹介します



Q 印象に残ったことはなんですか。

- ファシリテーターの重要性。
- オンラインの必要性。
- オンラインにも関わらず思ったより意見交換ができると感じた。
- オンラインでのワークショップで、どこまで参加者と共感できるものを作れるかワクワクする。
- 皆さんの意見がおよそ同じでまとまりが早かった。
- オンラインで、また限られた時間内で、意見を集約するのは難しいと思った。
- ワークショップの内容はスムーズに話し合いができたが、PCの基本操作方法（入力・保存など）が難しく感じた。
- 皆さんの意見が集まれば物事は前に進む。
- 豊島区の姉妹都市が大変多くあること。
- グループの参加人数が少なく、十分な意見交換ができなかった。
- グループ内で話し合いができたので、参加している実感がわいた。
- 失敗しながら経験する大切さ。
- できること、やってみたいことが重なる部分を見つけれてよかった。
- ワークショップの具体的な作り方・画面共有の仕方。
- 班の皆さんのワークショップについてのご意見。
- 徐々にまとまってきて、役割分担までできてよかった。
- 合意形成の難しさ。
- 企画について話げできた。

- タイムラインが決まり、流れが把握できてよかった。
- 子育てのちょっとした悩みも、今は共有し難いということを改めて感じた。
- 発表の目標が決まった。
- グループの方が大変優秀で、自分では思い至らない深い話までどんどん出しており、感嘆した。
- 発表日、グループで話しあった内容を一方的に他の皆さんへ伝えるのではなく、参加型にしようと思いついた。
- 色々とみんなで意見を出し合い一つにまとめることができたこと。

Q 今回学習した内容で、これから実行しようと思ったことを一つ挙げてください。

- 台本など、またグループで共有しながら作成したい。
- 次回の発表会に向けた準備（多数！）
- 子供と学校であったことなど、共有していこうと思った。
- ファシリテーターの方が、一人一人の意見を丁寧に聞いて、返答してくれた。自分も、子供や友人にそうしていきたい。
- 周囲巻き込み型で、ものごとを考えること。
- 作業内容や役割分担を決めるにあたり、積極的にかかわり、ワークショップを成功させたい。意見をまんべんなく聞くようにすること。
- ストリームを活用して、意見を出し合ってまとめる。
- ストリーム上での準備の積極的な参加。
- オンラインで有効な技術を取り入れていく。
- 事前に、意見や提案内容をできるだけまとめたり、言葉にできるように考えたい。
- 役割分担で、タイムキーパーを設定することや、アイスブレイクを入れること。
- クラスルームの使い方をもっと学びたい。 □ 不明点は聞くようにする。
- 皆で前向きに進める様子なので、楽しく発表を迎えられるようにしたい。
- 発表会に向けて、自分なりにどうしたら上手くできるかを考えたい。
- 決定内容についての考えをまとめ、グループの皆さんと連絡を取りながら、発表に備える
- オンラインワークショップをするという未経験の分野で緊張していたが、その中で楽しもうと思った。
- ワークショップの企画を頑張りたい。画面共有もやってみたい。

Q その他お気づきの点やご意見等がありましたらご記入ください。

- 自分でオンラインワークショップができるか不安。
 ▷オンラインならではの難しさもありますが、皆さん慣れていないので、うまくいかなくても大丈夫！と齋藤先生のお話にもありました。午前中の練習時間を活用してください。台本の準備もお願いします。発表日前にMeetの開催申請も受け付けています！（基本は平日9-17時の間をお願いしています。）
- Meetに参加するのはできるが、ファシリテーターや、書記はハードルが高い。基本的なPCスキルがないところから、保護者主体でオンラインワークショップをすすめていくのは、正直難しい。ワークショップ作成時に必要なClassroom機能（画面共有・ピン止めなど）の資料が事前にほしかった。
 ▷グループのClassroomにオンラインマニュアルを随時更新しています。画面共有の仕方など掲載しています。ご確認ください。またご質問いただいた方には、個別にも回答させていただきます。またインターネットで、最新情報を確認することもおすすめしております。